

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400407		
法人名	有限会社 アテンド		
事業所名	グループホーム すかい(桜ユニット)		
所在地	静岡県伊東市八幡野 1759-800		
自己評価作成日	平成26年1月9日	評価結果市町村受理日	平成26年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2270400407-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成26年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の尊厳を主軸に個別ケアへの対応重視した現場に日々努力を重ねております。尊厳とは一言ではいきれず、日々の業務を通じ入居者にとって安らぎある生活に繋がること(言葉の掛け方、直接ケア一時的対応等一つのケア内容)がどうあるかが尊厳あるケアに通じるとして職員全員が共有認識出来るよう指導を重ねております。又、今年度は開設から丸8年、入居者の高齢化も進み、2名の看取りケアを行いました。どの事例も穏やかな最期を迎えることが出来、御家族からいただいたお言葉や、看取りを行った職員評価にも悔いのないターミナルケアを出来たとの感想。最期の生活の場として選択いただいた、入居者の皆さんに疑似家族として共に暮らしている現場です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊豆高原の豊かな季節の彩を居ながらに感じる事ができる場所に事業所はあります。“日本の四季を大事にしたい、と、おせち料理や餅つき、餃子に至るまで本物志向にこだわり、毎年元旦には二部式の着物で記念撮影を行っています。初詣は日程を分けて全員が祈願に出かけ、一年の計を祈る利用者の清々しい表情に職員の気持ちもひとつとなつていきます。本年度は2名の看取りがあり、大きな意識変革の年となりました。目の前で亡くなっていく不安感ばかり知れないものがありますが、一瞬一瞬を見守っていくことで家族からも感謝の言葉と評価をもらい、職員の達成感と自信に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者主体のホームの理念に基づき、更に認知症理解を深める為外部研修に参加する、研修参加者は、職員会議の場でその内容や感想を報告する等、各職員のスキルUPを図りながら、プロとしての認知症理解を深め現場に繁栄させている。	理念は玄関に掲げて意識づけを図っています。“尊厳と礼節”、“利用者主体であること”が抽象的表現であることから、場面に応じた指導を行っています。一步離れた視点から職員の成長を見守ることで新たな気づきもあり、理念の定着を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	お花見、食材買い物同行、ボランティア受入れ、中学生社会実習の受入れ、地域花火見物、恒例の地域や家族を交えたガーデンバーベキュー、外食、他施設納涼祭の参加等、出来る限りの社会交流を図っている。又今年は、納涼祭に不参加入居者に、地域婦人会指導の納涼祭を施設内開催。	恒例のバーベキュー招待や、花火大会見学、ハーモニカ、民謡ボランティアの来訪もあり、納涼祭には浴衣姿の婦人部盆踊りで盛り上がりました。中学生の社会実習で記念に描いてもらった絵「あなたが笑うと私も笑う」は観る者をほのぼのとさせてくれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や、今後の参考にと訪れる施設見学者に対し又、その際に於ける家庭介護現場の相談等に対し、助言、アドバイス等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は推進委員会の開催を行っていたが、地域性や、不参加機関も多く、施設の方向性として、昨年より、年に1回家族会の開催とし、不参加家族には資料を送付し、ホーム運営の理解を深めて頂けるよう工夫している。	周囲に民家も少ないことなどマイナス要因を鑑み、運営推進会議は現在開催されておらず、今後も予定していません。代替として家族会を開催し、報告や話し合いの機会をもち事業所理解の場としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事の状況により相談、アドバイスを受けている。	事業所の運営や加算に関することは窓口に出向いて相談し協力を得ています。3ヶ月に一度開催される市の介護保険事業所連絡協議会に参加し、地域密着型としての情報交換に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者は自由に散歩が出来ている。又、拘束内容は常々、職員指導や拘束内容資料を各ユニットに設置し、よりその理解を把握と同時にゼロ拘束に向けた取り組みを行っている。	外部研修に参加し、内部研修に落とし込んでいます。転落リスクの高い利用者があり、福祉用具や医療、環境面からの工夫を試みています。緊急やむを得ない状態においては“切迫性”、“非代替性”、“一時性”に照らし、家族の理解を得つつ模索しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、申し送り、カンファレンス等の各場面に於いて、入居者本位とする施設運営視点を通しての指導を繰り返し、徹底、継続を行っている。又、職員の研修受講の推進も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容については、実際の事例を通じ学ぶ事もあった。今後の事例があった場合取り組んでいく事となる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要状況下に於いては必ず行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りや、御家族面会時の近況報告時、必要があれば意見意向を求め、内容によつて申し送りやカンファレンスシート、又はケアプランに乗せ反映している。	年に一度家族会を開催しています。看取りの報告を行い、事業所での真摯な取り組みへの評価をもらうことができました。日頃の対話やお便り、小さな変化や緊急時には密な連絡を行い、また職員には根拠が説明できるケアを指導しています。	報告、連絡、相談に漏れのないよう、特に新入職員が馴染むまでの数ヶ月はより配慮し、家族からの信頼がさらに集まることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の中に時間を割り当て、必ず意見や要望の確認を行っている。	会議の中で「一時間は意見交換しましょう」として時間を設けています。職員からはゴミ出しについて、入浴の順番についてと現場での細かい気づきあげられその場で検討しています。個人面談は実施していませんが気になる職員にはその都度声をかけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護プロ意識の向上、又は職員間の不公平感又、可能な限りの労働条件の改善等、代表者は運営、経営上の実際を伝えながら、個職員の意欲向上に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者又は認知症介護の基本姿勢はもとより介護のプロ意識の向上に繋がるよう、日々の状況指導や、外部研修の参加推奨に努めている。又、毎月の職員会議の場で、認知症をより理解出来るよう勉強会の時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修時の他施設職員との交流や、同地域内で働く職員間の情報交流、各会議参加時の他施設等の情報の提供等、常に自己満足世界とならないよう、全体への配慮を考慮。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメントや、入居後の環境変化不安感の軽減を図るための、環境説明、声掛け、観察による状態の把握には十分注意を図り、少しでも早く、新しい施設環境に慣れるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や、入居時には特に家族が施設入居を選択した心意、又、入居後に於いては、どのような生活を送って欲しいか等の意向を良く確認している。又、入居後の面会時は特に家族からみた入居者の様子も確認し、ケアの方向に繋がるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人機能レベル、どう過ごしたいのか、何に興味があり、どうして欲しいのか等、一方的な介護ではなく、残存機能に添いながら共に何かを行う事で、信頼関係の構築や、機能低下の予防に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会、外食外出、自宅又は兄弟等との旅行外泊等意向に沿い積極的に推奨している。又、手紙や年賀状の交換、電話での会話等も同様に取り計らっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記同様に行っている。	家族との外出の機会が多く、娘夫婦が持参するワインと共に外食を楽しみに待つ人や、入居中の妻のもとに通う夫がハーモニカ演奏で癒しの時間を共有する場面もありました。会話の中から新たに知る地域の話もあり、関係継続を大事にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の孤立、トラブル等については入居者全体を常に把握することで、全体の入居者がいかなる状況下においても、穏やかで満足ができ、不公平感のない暮らし作りひ配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の状況下に於いては可能な限り面会、又は、御家族とお会いした時の情報等で把握。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの関係が出来てくると、時に自己本位の希望訴えが出てくる時もあるが、其のことによって、他者に影響がある場合は、本人に理解出来試行錯誤の支援を繰り返し行い、結果として本人が納得出来るまで努力ケアを重ねている。	自己主張できる話材を用意して本人の好きなものを聞き出し、想いや意向の把握に努めています。アセスメントシートは事業所独自のものを使い、日頃の気づきや情報は記録シートで共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントによる入居前の情報を通じ、現在の様子等の理解に努め、これまでの背景を基に今後の生活が出来る限り継続され、安心感がある暮らしが出来る支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に注意観察を行い、その日の状態状況に沿い介護。例えば、昨夜不眠であれば、朝は覚醒するまで良く寝て頂き食事を延食、その日に腰や肩の痛みの様子や訴えがある日は普段行う掃除や、台所の片づけは中止するよう声掛けし見守る等。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な、カンファレンス、ケアプランの作成、又、突発的な事項についてはその都度ショートカンファレンスを行い状態と対応の共有を図り、於かれた状況対応に情報の共有を図っている。又、医療機関情報、家族意向についても面会時、急変時は電話連絡により意向確認反映に繋げている。	アセスメントは半年ごとに取り直し、状況変化の際はその場でショートカンファレンスを行い、最新のプランは職員が確認しやすいよう専用ファイルに綴じています。本年度は変化をモニタリングシートに記載する試みがあり、限られた時間の中での周知の仕組みが常に検討されています。	個別ケアの視点にかなったプランが全職員に浸透することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録シートにトータル的に把握出来る1日の様子の記録を続けている。又、今年度より介護計画書の書式を一部見直しや追加シートを加え、入居中の生活面や機能変化の様子が把握しやすい工夫とする様式シートの追加を加え、職員共有把握出来易く工夫。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護の答えは1つではないという事を常に念頭に置き、本人ご家族意向の把握、又は介護者から察した要望等を基に、多種課題に対し、その時々対応を職員が良く話し合い、ケアの方向性を決め対応を行う事を繰り返している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出困難な機能低下進行の入居者にも、日々の生活の活性を図るため可能な限り、ボランティアの受け入れを今年度より積極的に取り組んだ。又、従来の地域行事への参加可能入居者に於いては職員同行、又は個別家族支援により、積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の意向確認により、各入居者が必要な受診による、治療継続への支援を行っている。定期往診に加え、状態により必要時は他の専病院受診介助、又はご家族への受診介助依頼と、状況に合わせて柔軟に対応している。状況に合わせて24時間体制の往診も受けている。	かかりつけ医を継続している人もいて、受診は基本的に家族にお願いしています。協力医は月2回の往診があり、それ以外も状態に応じた指示がもらえています。協力医とは事業所としての看取り方針を相談のうえ、自然に見送ることへの支援が得られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パート正看1名と、常勤准看1名の体制で、入居者変化の情報提供とその内容によっては受診、又は、具体的対応アドバイス等、話し合いながら出来る限り初期治療と早期回復によって入居者の健康継続維持が図れる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院加療となつた際は、入居生活中の情報提供又、入院中の面会による状態確認及びソーシャルワーカーを通じての情報収集等を積極的に行い、Dr退院OKとなれば1日でも早い退院により入院リスクが最低限になり、ホームでの生活リハビリによる廃用症候リスク予防に配慮。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階でご家族等の意向確認を執っており、以降は状態の変化に合わせてDr診断をも兼ね合わせ、状態変化の都度紙面による意向確認を重ねている。同時にその都度、看取りを望む場合のホームに於ける看取り内容をも、紙面による内容の説明も同時に行い意思確認。	契約時に看取りの同意書を得ていますが、状態変化の都度、書面をもって再度意向確認しています。本年度は2件の看取りがありました。「褥瘡は作らない」「最期まで食べる」を指針とし、管理者が看護師であることから職員も心強く、家族からは感謝の言葉が届いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、マニュアル化により、職員はその対応について十分理解されている。又、往診を受けている入居者の医療機関については、24時間体制の往診対応により、連携体制は整備されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や、ご家族、近隣等の協力を得て、定期的な避難訓練(夜間想定も含む)を行っている。又、非常機器取り扱い指導を専門機関の協力により、現場での実施訓練も其の度繰り返し行う。非常時の受け入れ機関は契約書を交わしている。	地震、火災、夜間想定での訓練を実施しています。レスキューシートを使用した階段の搬送訓練では、時間短縮の指摘を消防署から受け、生活排水はスプリンクラーから利用できるとのアドバイスもあり、実践に活かせる訓練であることが視えます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人が穏やかで安心した生活支援となる言葉使い、対応の在り方に十分留意したケアとなるよう環境も含め配慮している。状況に於いては、その都度職員指導を行い、介護者としてのプロ認識を深め、接遇の在り方で人格や尊厳が傷つくことがないよう配慮	肌の露出部分にはバスタオルをかけるといった羞恥心への配慮や、食事前は排泄を済ませて気持ち良く食べる支援が行われ、「自分に置き換えたかどうか」を問うています。接遇については、その人が心地よいと感じる空間作りを指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望が確認出来るよう日常の会話の中で注意配慮している。又、自己決定や表現、訴えの出来ない利用者については、表情や行動の中で可能な限り、思いをくみ取るよう心がけ対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、その日の様子又は、希望等に出来る限り添い、飲み物の提供買い物外出同行、ドライブ、又は、食べたいメニューの確認等、又、体調に合わせた食事の延食と、可能な限り利用者に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室を主に利用しているが、美容院での毛染め希望への介助、化粧習慣の継続支援等や、着用衣類の選択支援等生活の活性に繋がるよう留意支援している。又、自己判断や認知機能低下進行にある入居者に関しては、職員が心配りし、整容や着衣の配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の機能に合わせて食事作りの下準備や、食後の後片付け等、概ね入居者間での役割分担を生かしながら、共に行っている。	生姜をすりおろす様子や、エプロンをつけて職員と台所に立つ姿を視認しました。「職員も30分はゆっくり座って会話を楽しもう」とのルールが充実感を倍増させます。毎年庭で開催されるバーベキューには家族の応援も得て、流しそうめんには近隣の子も達も加わり賑わいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭の主婦が家族の健康管理に配慮する様栄養のバランス、彩、入居者に合わせた柔らかさ等、圧力鍋を利用したり、多種の野菜利用、肉、野菜、豆類の利用等に注意しメニュー作成。又、個人ペースに合わせた量、時間にも配慮。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後と、個人の機能に合わせたケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄テイツツ表の利用により、どの職員もパターンの把握により支援。夏季と冬季では相違があるが、夏季は特にオムツ外しに成功があるが、冬季には、おむつや、当てパット者が多くなる。又、夜間はオムツ対応でも、日中は出来る限りトイレ排泄支援を行っている。	個々の利用者のパターンを把握し、日中はトイレでできるだけ失敗のない排泄を支援しています。特に食事前は気持ちよく食卓に着くことを習慣としています。便秘予防には起床時の牛乳や、野菜類を多くしたメニューに配慮して自然排便を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日起床時は牛乳を飲用、メニューに野菜を多く取り入れ、又可能な人は散歩、アクティブでの運動等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定により、冬季は3人、夏季は4人の人が交替で入浴を行っている。短期記憶力低下により、入居者間でのトラブル回避、平等感の認識が得られるよう、入浴表に記録を残し、必要に応じてはそれを持って説明し納得が得られるよう取り計らっている。	各ユニット半数近くの方がリフト浴使用となり、週2回、一日3~4人の入浴としています。食事と並んで最も楽しみなものとして、ゆっくり浴槽に浸かることで満足感が味わえるようにしています。夏場には入浴しない日は清拭を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	遮光カーテン、ブラインドの利用等による、採光調節、テレビ観賞時間の設定や就寝時間の早い人などへの配慮として、会話のトーン、物音、テレビボリューム調整等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の内服管理は職員によるとし、処方薬の内容、効能、副作用等の職員把握は、個別薬手帳、文献等の保管により把握がいつでも出来るよう、資料保管している。又、状態に応じDr状況報告内服調整への配慮も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯干し、タタミ、料理の下ごしらえ、食後片付け等、それぞれの役割分担やその日の気分等で、好きなことの家事を行われる。又、庭掃きや、草むしり等自然に自主的に行っていたりもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との外出、外泊や旅行、ホームでのドライブや、外出等の外出、電車での小旅行等積極的に可能な限り支援している。	職員を増員したことにより、日常的な散歩や買い物、ドライブに出かける時間が増えています。寒い時期でも午前中はひなたぼっこをするなど外気に触れる時間を作り、車いす利用者でも初詣に出かけています。家族との外出機会もありワクワク感を大事にしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人の希望とある程度所持管理可能な人は自己管理所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話対応や、希望によって家族への電話、又、手紙のやりとり、又、今年はある程度印刷し名前と、一言の言葉を添え出されるように工夫したところ、多数の入居者が家族等に年賀状を出された。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に生活環境に配慮し、室温設定又は加湿、季節の草花を生けたりし季節感を感じられたり大きな不快音を出さない等、配慮している。	アレンジできるテーブルとソファ、和室を含め十分な広さがあり、大きな窓からは伊豆の海山を満喫できる贅沢な空間です。ベランダのプランターには色とりどりのパンジーが、壁には利用者一人ひとりの手形と今年の抱負が掲げられ力強さがあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のペースで気の合った同士で散歩する、天気の良い日はデッキでお茶をしたり、中庭で会話をしたりと、その時々状況に合わせた、生活空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、居室の環境作りへの配慮として、出来る限り、馴染みの品での環境作りを依頼している。家族写真を飾ったり、好みの品を飾ったりと、思い思いの環境作りをされている。	扉を開けた時に向かいの居室が見えないよう交互に配置された個室はプライバシーが確保されています。趣味のペーパーフラワー、健康器具やゴルフ道具、サイドボードに贈り物のワイン、毎朝コーヒーを豆から挽いて愉しむといったその人らしい生活模様が成されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置や、居室毎クロスを変える、カーテンが各室変えてある、又、水回りと居室のドアの色を変える、夜間に於いてはトイレ入り口上に照明を点ける等、場所の認識理解し易い工夫の配慮工夫を施している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400407		
法人名	有限会社 アテンド		
事業所名	グループホーム すかい(藤ユニット)		
所在地	静岡県伊東市八幡野 1759-800		
自己評価作成日	平成26年1月9日	評価結果市町村受理日	平成26年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2270400407-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成26年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の尊厳を主軸に個別ケアへの対応重視した現場に日々努力を重ねております。尊厳とは一言ではいきれず、日々の業務を通じ入居者にとって安らぎある生活に繋がること(言葉の掛け方、直接ケア時の対応等一つ一つのケア内容)がどうあるかが尊厳あるケアに通じるとして職員全員が共有認識出来るよう指導を重ねております。又、今年度は開設から丸8年、入居者の高齢化も進み、2名の看取りケアを行いました。どの事例も穏やかな最期を迎えることが出来、御家族からいただいたお言葉や、看取りを行った職員評価にも悔いのないターミナルケアを出来たとの感想。最期の生活の場として選択いただいた、入居者の皆さんに疑似家族として共に暮らしている現場です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊豆高原の豊かな季節の彩を居ながらに感じる事ができる場所に事業所はあります。“日本の四季を大事にしたい、と、おせち料理や餅つき、餃子に至るまで本物志向にこだわり、毎年元旦には二部式の着物で記念撮影を行っています。初詣は日程を分けて全員が祈願に出かけ、一年の計を祈る利用者の清々しい表情に職員の気持ちもひとつとなつていきます。本年度は2名の看取りがあり、大きな意識変革の年となりました。目の前で亡くなっていく不安感ばかり知れないものがありますが、一瞬一瞬を見守っていくことで家族からも感謝の言葉と評価をもらい、職員の達成感と自信に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者主体の意味を念頭に置き、更に認知症理解を深める為外部研修に参加する、研修参加者は、職員会議の場でその内容や感想を報告する等、各職員のスキルUPを図りながら、プロとしての認知症理解を深め現場に繁栄させている。	理念は玄関に掲げて意識づけを図っています。“尊厳と礼節”、“利用者主体であること”が抽象的表現であることから、場面に応じた指導を行っています。一步離れた視点から職員の成長を見守ることで新たな気づきもあり、理念の定着を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	お花見、食材買い物同行、ボランティア受入れ、中学生社会実習の受入れ、地域花火見物、恒例の地域や家族を交えたガーデンバーベキュー、外食、他施設納涼祭の参加等、出来る限りの社会交流を図っている。又今年は、納涼祭に不参加入居者に、地域婦人会指導の納涼祭を施設内開催。	恒例のバーベキュー招待や、花火大会見学、ハーモニカ、民謡ボランティアの来訪もあり、納涼祭には浴衣姿の婦人部盆踊りで盛り上がりました。中学生の社会実習で記念に描いてもらった絵「あなたが笑うと私も笑う」は観る者をほのぼのとさせてくれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や、今後の参考にと訪れる施設見学者に対し又、その際に於ける家庭介護現場の相談等に対し、助言、アドバイス等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は推進委員会の開催を行っていたが、地域性や、不参加機関も多く、施設の方向性として、昨年より、年に1回家族かいの開催とし、不参加家族には資料を送付し、ホーム運営の理解を深めて頂けるよう工夫している。	周囲に民家も少ないことなどマイナス要因を鑑み、運営推進会議は現在開催されておらず、今後も予定していません。代替として家族会を開催し、報告や話し合いの機会をもち事業所理解の場としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事の状況により相談、アドバイスを受けている。	事業所の運営や加算に関することは窓口に出向いて相談し協力を得ています。3ヶ月に一度開催される市の介護保険事業所連絡協議会に参加し、地域密着型としての情報交換に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者は自由に散歩が出来ている。又、拘束内容は常々、職員指導によるその理解を含めゼロ拘束を行っている。	外部研修に参加し、内部研修に落とし込んでいます。転落リスクの高い利用者があり、福祉用具や医療、環境面からの工夫を試みています。緊急やむを得ない状態においては“切迫性”、“非代替性”、“一時性”に照らし、家族の理解を得つつ模索しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の内容を良く理解されるように日々の状況の中で話し合っている。尊厳の理解を通じ、あつてはならない事とし、又申し送りや入居者の身体変化に十分観察注意を払い運営している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容については、実際の事例を通じ学ぶ事もあった。今後の事例があった場合取り組んでいく事となる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要状況下に於いては必ず行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りや、御家族面会時の近況報告時、必要があれば意見意向を求め、内容によって申し送りやカンファレンスシート、又はケアプランに乗せ反映している。	年に一度家族会を開催しています。看取りの報告を行い、事業所での真摯な取り組みへの評価をもらうことができました。日頃の対話やお便り、小さな変化や緊急時には密な連絡を行い、また職員には根拠が説明できるケアを指導しています。	報告、連絡、相談に漏れのないよう、特に新入職員が馴染むまでの数ヶ月はより配慮し、家族からの信頼がさらに集まることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の中に時間を割り当て、必ず意見や要望の確認を行っている。	会議の中で「一時間は意見交換しましょう」として時間を設けています。職員からはゴミ出しについて、入浴の順番についてと現場での細かい気づきあげられその場で検討しています。個人面談は実施していませんが気になる職員にはその都度声をかけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護プロ意識の向上、又は職員間の不公平感又、可能な限りの労働条件の改善等、代表者は運営、経営上の実際を伝えながら、個職員の意欲向上に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者又は認知症介護の基本姿勢はもとより介護のプロ意識の向上に繋がるよう、日々の状況指導や、外部研修の参加推奨に努めている。又、毎月の職員会議の場で、認知症をより理解出来るよう勉強会の時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修時の他施設職員との交流や、同地域内で働く職員間の情報交流、各会議参加時の他施設等の情報の提供等、常に自己満足世界とならないよう、全体への配慮を考慮。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメントや、入居後の環境変化不安感の軽減を図るための、環境説明、声掛け、観察による状態の把握には十分注意を図り、少しでも早く、新しい施設環境に慣れるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や、入居時には特に家族が施設入居を選択した心意、又、入居後に於いては、どのような生活を送って欲しいか等の意向を良く確認している。又、入居後の面会時は特に家族からみた入居者の様子も確認し、ケアの方向に繋がるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人機能レベル、どう過ごしたいのか、何に興味があり、どうして欲しいのか等、一方的な介護ではなく、残存機能に添いながら共に何かを行う事で、信頼関係の構築や、機能低下の予防に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会、外食外出、自宅又は兄弟等との旅行外泊等意向に沿い積極的に推奨している。又、手紙や年賀状の交換、電話での会話等も同様に取り計らっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記同様に行っている。	家族との外出の機会が多く、娘夫婦が持参するワインと共に外食を楽しみに待つ人や、入居中の妻のもとに通う夫がハーモニカ演奏で癒しの時間を共有する場面もありました。会話の中から新たに知る地域の話もあり、関係継続を大事にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の孤立、トラブル等については入居者全体を常に把握することで、全体の入居者がいかなる状況下においても、穏やかで満足ができ、不公平感のない暮らし作りひ配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の状況下に於いては可能な限り面会、又は、御家族とお会いした時の情報等で把握。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの関係が出来てくると、時に自己本位の希望訴えが出てくる時もあるが、其のことによって、他者に影響がある場合は、本人に理解出来試行錯誤の支援を繰り返し行い、結果として本人が納得出来るまで努力ケアを重ねている。	自己主張できる話材を用意して本人の好きなものを聞き出し、思いや意向の把握に努めています。アセスメントシートは事業所独自のものを使い、日頃の気づきや情報は記録シートで共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントによる入居前の情報を通じ、現在の様子等の理解に努め、これまでの背景を基に今後の生活が出来る限り継続され、安心感がある暮らしが出来る支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に注意観察を行い、その日の状態状況に沿い介護。例えば、昨夜不眠であれば、朝は覚醒するまで良く寝て頂き食事を延食、その日に腰や肩の痛みの様子や訴えがある日は普段行う掃除や、台所の片づけは中止するよう声掛けし見守る等。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な、カンファレンス、ケアプランの作成、又、突発的な事項についてはその都度ショートカンファレンスを行い状態と対応の共有を図り、於かれた状況対応に情報の共有を図っている。又、医療機関情報、家族意向についても面会時、急変時は電話連絡により意向確認反映に繋げている。	アセスメントは半年ごとに取り直し、状況変化の際はその場でショートカンファレンスを行い、最新のプランは職員が確認しやすいよう専用ファイルに綴じています。本年度は変化をモニタリングシートに記載する試みがあり、限られた時間の中での周知の仕組みが常に検討されています。	個別ケアの視点にかなったプランが全職員に浸透することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録シートにトータル的に把握出来る1日の様子の記録を続けている。又、今年度より介護計画書の書式を一部見直しや追加シートを加え、入居中の生活面や機能変化の様子が把握しやすい工夫とする様式シートの追加を加え、職員共有把握出来易く工夫。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化に注意し、状況に於いてはその事への一時的対応について、情報共有化を図るべき、ショートカンファレンスシートの使用記載を行っている。又家族状況等、共有情報とする事項については、申し送りノートの活用やカレンダーの書き込みとしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出困難な機能低下進行の入居者にも、日々の生活の活性を図るため可能な限り、ボランティアの受け入れを今年度より積極的に取り組んだ。又、従来の地域行事への参加可能入居者に於いては職員同行、又は個別家族支援により、積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の意向確認により、各入居者が必要な受診による、治療継続への支援を行っている。定期往診に加え、状態により必要時は他の専病院受診介助、又はご家族への受診介助依頼と、状況に合わせて柔軟に対応している。状況に合わせて24時間体制の往診も受けている。	かかりつけ医を継続している人もいて、受診は基本的に家族にお願いしています。協力医は月2回の往診があり、それ以外も状態に応じた指示がもらえています。協力医とは事業所としての看取り方針を相談のうえ、自然に見送ることへの支援が得られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パート正看1名と、常勤准看1名の体制で、入居者変化の情報提供とその内容によっては受診、又は、具体的対応アドバイス等、話し合いながら出来る限り初期治療と早期回復によって入居者の健康継続維持が図れる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院加療となつた際は、入居生活中の情報提供又、入院中の面会による状態確認及びソーシャルワーカーを通じての情報収集等を積極的に行い、Dr退院OKとなれば1日でも早い退院により入院リスクが最低限になり、ホームでの生活リハビリによる廃用症候リスク予防に配慮。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階でご家族等の意向確認を執っており、以降は状態の変化に合わせてDr診断をも、兼ね合わせ、状態変化の都度紙面による意向確認を重ねている。同時にその都度、看取りを望む場合のホームに於ける看取り内容をも、紙面による内容の説明も同時に行い意思確認。	契約時に看取りの同意書を得ていますが、状態変化の都度、書面をもって再度意向確認しています。本年度は2件の看取りがありました。「褥瘡は作らない」「最期まで食べる」を指針とし、管理者が看護師であることから職員も心強く、家族からは感謝の言葉が届いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、マニュアル化により、職員はその対応について十分理解されている。又、往診を受けている入居者の医療機関については、24時間体制の往診対応により、連携体制は整備されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や、ご家族、近隣等の協力を得て、定期的な避難訓練(夜間想定も含む)を行っている。又、非常機器取り扱い指導を専門機関の協力により、現場での実施訓練も其の度繰り返し行う。非常時の受け入れ機関は契約書を交わしている。	地震、火災、夜間想定での訓練を実施しています。レスキューシートを使用した階段の搬送訓練では、時間短縮の指摘を消防署から受け、生活排水はスプリンクラーから利用できるとのアドバイスもあり、実践に活かせる訓練であることが視えます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人が穏やかで安心した生活支援となる言葉使い、対応の在り方に十分留意したケアとなるよう環境も含め配慮している。状況に於いては、その都度職員指導を行い、介護者としてのプロ認識を深め、接遇の在り方で人格や尊厳が傷つくことが内容配慮。	肌の露出部分にはバスタオルをかけるといった羞恥心への配慮や、食事前は排泄を済ませて気持ち良く食べる支援が行われ、「自分に置き換えたかどうか」を問うています。接遇については、その人が心地よいと感じる空間作りを指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望が確認出来るよう日常の会話の中で注意配慮している。又、自己決定や表現、訴えの出来ない利用者については、表情や行動の中で可能な限り、思いをくみ取るよう心がけ対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、その日の様子又は、希望等に出来る限り添い、飲み物の提供買い物外出同行、ドライブ、又は、食べたいメニューの確認等、又、体調に合わせた食事の延食と、可能な限り利用者に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室を主に利用しているが、美容院での毛染め希望への介助、化粧習慣の継続支援等や、着用衣類の選択支援等生活の活性に繋がるよう留意支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の機能に合わせて食事作りの下準備や、食後の後片付け等、概ね入居者間での役割分担を生かしながら、共に行っている。	生姜をすりおろす様子や、エプロンをつけて職員と台所に立つ姿を視認しました。「職員も30分はゆっくり座って会話を楽しもう」とのルールが充実感を倍増させます。毎年庭で開催されるバーベキューには家族の応援も得て、流しそうめんには近隣の子も達も加わり賑わいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭の主婦が家族の健康管理に配慮する様栄養のバランス、彩、入居者に合わせた柔らかさ等、圧力鍋を利用したり、多種の野菜利用、肉、野菜、豆類の利用等に注意しメニュー作成。又、個人ペースに合わせた量、時間にも配慮。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後と、個人の機能に合わせたケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄テイツツ表の利用により、どの職員もパターンの把握により支援。夏季と冬季では相違があるが、夏季は特にオムツ外しに成功があるが、冬季には、おむつや、当てパット者が多くなる。又、夜間はオムツ対応でも、日中は出来る限りトイレ排泄支援を行っている。	個々の利用者のパターンを把握し、日中はトイレでできるだけ失敗のない排泄を支援しています。特に食事前は気持ちよく食卓に着くことを習慣としています。便秘予防には起床時の牛乳や、野菜類を多くしたメニューに配慮して自然排便を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日起床時は牛乳を飲用、メニューに野菜を多く取り入れ、又可能な人は散歩、アクティブでの運動等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定により、冬季は3人、夏季は4人の人が交替で入浴を行っている。短期記憶力低下により、入居者間でのトラブル回避、平等感の認識が得られるよう、入浴表に記録を残し、必要に応じてはそれを持って説明し納得が得られるよう取り計らっている。	各ユニット半数近くの方がリフト浴使用となり、週2回、一日3~4人の入浴としています。食事と並んで最も楽しみなものとして、ゆっくり浴槽に浸かることで満足感が味わえるようにしています。夏場には入浴しない日は清拭を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	遮光カーテン、ブラインドの利用等による、採光調節、テレビ観賞時間の設定や就寝時間の早い人などへの配慮として、会話のトーン、物音、テレビボリューム調整等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の内服管理は職員によるとし、処方薬の内容、効能、副作用等の職員把握は、個別薬手帳、文献等の保管により把握がいつでも出来るよう、資料保管している。又、状態に応じDr状況報告内服調整への配慮も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯干し、タタミ、料理の下ごしらえ、食後片付け等、それぞれの役割分担やその日の気分等で、好きなことの家事を行われる。又、庭掃きや、草むしり等自然に自主的に行っていたりもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との外出外出、外泊や旅行、ホームでのドライブや、外出等の外出、電車での小旅行等積極的に可能な限り支援している。	職員を増員したことにより、日常的な散歩や買い物、ドライブに出かける時間が増えています。寒い時期でも午前中はひなたぼっこをするなど外気に触れる時間を作り、車いす利用者でも初詣に出かけています。家族との外出機会もありワクワク感を大事にしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人の希望とある程度所持管理可能な人は自己管理所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話対応や、希望によって家族への電話、又、手紙のやりとり、又、今年はある程度印刷し名前と、一言の言葉を添え出されるように工夫したところ、多数の入居者が家族等に年賀状を出された。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に生活環境に配慮し、室温設定又は加湿、季節の草花を生けたりし季節感を感じられたり大きな不快音を出さない等、配慮している。	アレンジできるテーブルとソファ、和室を含め十分な広さがあり、大きな窓からは伊豆の海山を満喫できる贅沢な空間です。ベランダのプランターには色とりどりのパンジーが、壁には利用者一人ひとりの手形と今年の抱負が掲げられ力強さがあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のペースで気の合った同士で散歩する、天気の良い日はデッキでお茶をしたり、中庭で会話をしたりと、その時々状況に合わせた、生活空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、居室の環境作りへの配慮として、出来る限り、馴染みの品での環境作りを依頼している。家族写真を飾ったり、好みの品を飾ったりと、思い思いの環境作りをされている。	扉を開けた時に向かいの居室が見えないよう交互に配置された個室はプライバシーが確保されています。趣味のペーパーフラワー、健康器具やゴルフ道具、サイドボードに贈り物のワイン、毎朝コーヒーを豆から挽いて愉しむといったその人らしい生活模様が成されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置や、居室毎クロスを変える、カーテンが各室変えてある、又、水回りと居室のドアの色を変える、夜間に於いてはトイレ入り口上に照明を点ける等、場所の認識理解し易い工夫の配慮工夫を施している。		